

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

玉城町立有田小学校

5月27日に実施しました全国学力・学習状況調査について、有田小学校の状況をお知らせします。学力面においては、国語、算数ともに今年度も県平均、全国平均を上回りました。この結果は、学校だけでなく家庭・地域での取り組みが進み、そのことが子どもたち一人ひとりの頑張りにつながったことを示すものだと考えます。また、授業や家庭学習、地域の活動などに向かう子どもたちの意欲的・積極的な姿勢がより前向きになったことを示すものだと思います。ご一読いただき、今後の家庭でのご指導の参考にしていただきますようお願いいたします。

【学力調査について】

本校の児童は、集中して調査に取り組んでいました。学習内容がしっかり定着してきており、それを活用して粘り強く取り組む姿が多く見られました。記述式の問題に対しても自分の考えを書くことができている、考える力・書く力が育ってきていると言えます。

全体の結果としては、国語、算数ともに全国平均を上回りました。全国平均を上回った問題数は、国語10/14、算数10/16（全国平均を上回った問題数/全問題数）という結果でした。

国語では、「目的や意図に応じ、資料を使って話す」ことがよくできています。しかし、「目的を意識して読み、中心となる語や文を見つけて要約する」「漢字を分の中で正しく使う」「思考に関する語句『より』の使い方を理解して使う」ことに課題が見られました。

算数では、「速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考察する」「棒グラフから、項目間の関係を読み取る」ことがよくできています。しかし、「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて解説する」「商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする」ことに課題が見られました。

問題別に見ると、県平均、全国平均を上回っていても、正答率としては低い問題があります。また、県平均、全国平均を下回りさらに正答率の低い問題もありました。これらは本校の弱みであります。詳しくは次頁以降をご覧ください。

【学校質問紙について】

質問紙調査の結果としては、自尊心や難しいことへの挑戦意欲、授業への理解などの項目で、全国平均よりも高い結果となりました。しかし、就寝時刻、夢や目標を持っている、平日の学習時間、計画的な学習などの項目で、全国平均を下回っています。また、一見すると高い割合ですが、学校が楽しい、いじめはどんな理由があってもいけない、ととらえていない子がいることにも留意する必要があります。保護者の皆様には、お子さんの様子、学年の発達段階に合わせて、生活リズム、家庭学習の見守り等、関わっていただけると幸いです。

【国語】 弱みと考えられる問題

問題3三(1)ウ (37.9%、54.5%) (本校正答率、全国正答率)

傍線部ウ(「つみ」重ね)について、漢字を使って書き直す問題です。誤答としては「績」や「責」というものが多く、無解答も見られました。漢字の学習の時間以外でも、普段から習った漢字を意識して使えるようにしていく必要があります。

問題2四 (34.5%、29.7%) (本校正答率、全国正答率)

問 面ファスナーは国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。」

〈条件〉1. 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中での使われ方について書くこと

2. 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
3. 50字以上70字以内にまとめて書くこと。

文章中の内容が記されている部分を中心に読み、必要な情報を見つけ、条件に合わせて要約する問題です。誤答としては「1の片方の条件(使われ方)は満たしているが、もう片方の条件(よさ)を満たしていない」というものが最も多かったです。複数の求められている条件を確実に把握し、条件に合った文章を書くことや、自分が書いた文章が条件に合致しているかを見直すことを普段から行っていく必要があります。

問題2二 (75.9%、87.5%) (本校正答率、全国正答率)

問 文中の「より」と同じ使い方のものはどれですか。1～4から選びましょう。

「そのため、一つ一つ取り外さなければならないホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が留め具として適していたのです。

思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題です。正答は4ですが、1や2といった誤答も多く見られました。思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしていく必要があります。また、日記を書かせる宿題の中で、助詞の使い方が正しくない児童も見られます。各学年で文法を扱う単元がありますが、その時間だけでなく、国語の授業や算数で自分の考えを書かせる際などにも、適切な助詞の使い方等について意識的に指導をしていくことも必要だと考えられます。

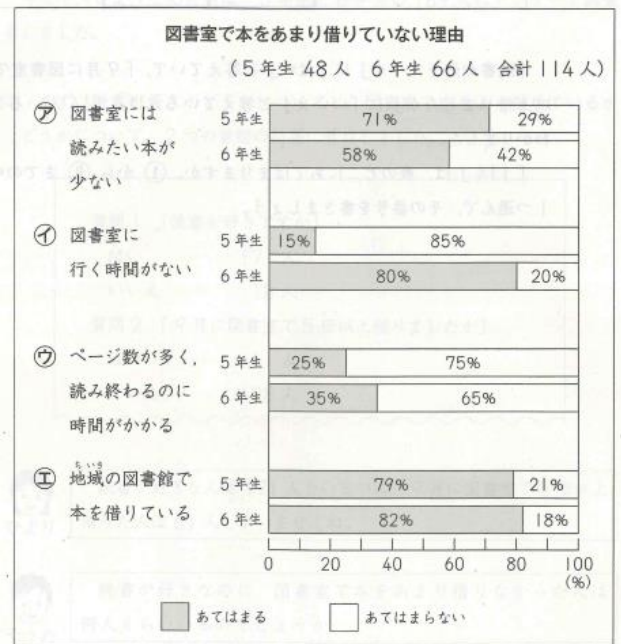
4	3	2	1
今年の夏は去年の夏より暑いです。	会場へは正門よりお入りください。	雨天により試合は延期になりました。	音楽会は九時より始まります。

【算数】 弱みと考えられる問題

問題3 (4) (48.3%、52.0%) (本校正答率、全国正答率)

問 このグラフについて5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、一番大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた人の割合はそれぞれ何%ですか。項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。最も多い誤答は、「言葉での記述はできているが、数値の記述がない」ものでした。割合の違いを「～が多い」と説明するだけでなく、具体的な数値を挙げて、根拠を明らかにして説明する力が必要です。



また、この問題では無解答も複数見られました。これ以降の問題でも無解答があったことから、読む分量の多さによる時間配分ができなかったことや、表・グラフの見方が分からず、問題を理解し切れなかったことが原因として考えられます。表・グラフから分かることを読み取る学習を算数に限らず、理科・社会等の他教科等でも意識して行う必要があります。また、委員会活動等でグラフや表にまとめる活動を行い、児童に発信させることで理解を促すことも有効だと考えられます。

問題4二 (58.6%、55.5%) (本校正答率、全国正答率)

(2) 8人に、4Lのジュースを等しく分けます。
1人分は何Lですか。求める式と答えを書きましょう。

商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することができるかどうかをみる問題です。正答は $4 \div 8 = 0.5$ ですが、2と答える誤答が多くありました。式は $4 \div 8$ と正しく答えることができて、(大きい数)÷(小さい数)の計算をしてしまっており、直感的に答えた可能性も考えられます。ただ、昨年も関連する問題が出題されていますが、そのときよりもこの学年の正答率は上がっています。各学年で数直線などを系統立てて指導している成果だと考えられます。今後も継続して取り組み、量感を鍛え、各学年で確実に力を付けさせていく必要があります。

【学校としての今後の取り組みについて】

国語においては、漢字を正しく書き使う力をつけるために、既習の漢字を活用する機会を充実させていきます。また、資料をもとにして、条件に合わせて自分の考えを書く力をつけ、書いた文章が条件に合致しているか見直す習慣を身に付けさせます。また高学年では、「思考に関わる語句」、中学年では「様子や行動、気持ちや性格を表す語句」、低学年では「身近なことを表す語句」を豊かにして、会話や文章で使えるようにしていきます。

算数においては、算数用語や記号を使って、図、式、数直線などを関連させながら説明する活動を充実させていきます。また、日常生活の中で時刻と時間を意識した生活をさせ、それらに親しませます。さらに、グラフに関する問題で課題が見られたことから、低学年のうちから、各教科で生活と結び付けながら、棒グラフや表を読み取らせていきます。

今後も、「わかる授業」に向けて授業改善を進め、考えを伝え合い学び合う授業づくりをめざしていきます。授業において、学び合いを進めるためには、子どもたち同士がお互いの考えを尊重し何でも言える雰囲気をつくっていくことが大切です。がんばりを「認める、励ます、ほめる」ことを大事にしながら授業で鍛えることを進めていきたいと考えています。